

はじめに

ここでは、すでに出てきた漢字もいくつかあるので、少し多めに漢字を提出してみましょう。あらかじめ、以前に読ませた漢字を示してみせるのは大いにけっこうです。そのさい「知ってるでしょ？」と聞かずに「覚えているかしら？」とやさしく言います。読めたら「まあ覚えていたの！」とほめること。それから“橋”が“一本橋”か迷うかも知れませんが“一本橋”の方が覚えやすいでしょう。“はし”と“ばし”も、“靴”(くつ)が長いと“長靴 (ながぐつ)になる、といった例を引いて教えるのもいい方法です。いずれにしても、少々戸惑ったり、突っかえたりしても気にしないことが大切。いつも最高の方法を求めるのは良くありません。“狸”と“猫”を間違えても気にしないこと。間違えるのは、子どもが猫という字をかなり知っていることの証拠だからです。漢字は「動物村、鹿、熊、狸、猿、象、原っぱ、一本橋、狼、山」などを提出してみましょう。

えー、あるところに動物村がありました。動物村。村っていうのはどういふところかな、村っていうのは、お家がたくさん集まっているところですよ。うんと集まっていると村でなくて町っていいですね。

動物村がありました。そこにはねえ、どんな動物が住んでいたかな、さあここに書きますよ。これ知ってるかな、なんていう字か。

「シカ！」

よく知っているね、鹿さん、それから、

「クマ！」

これ熊さんですね。それから、

「ネコ！」

ねこかな、

「タヌキ！」

これは狸ですね。これは狐ですね。

「サル！」

猿ですね、それから、

「ゾウ！」

象。さあいろんな動物がいますね。

こういうたくさんの動物がねえ、この動物村には住んでいたんです。動物村から川が流れておってね、動物村は川のこちら側にあるんですよ。むこう側にね、広い原っぱがありました。原っぱっていう字知ってるかな？

「知ってる！」

知ってる、そう、この原っぱに行くのに一本橋が架かっていました。一本橋って知ってる？ 一遍に一人しか通れませんよ、幅が狭くてね。皆さんが普通通るような橋は、大きな広い橋でね、車が何台も一遍に通れるような橋ですが、この動物村に架かっているこの橋はね、一本橋なんです。たった一本、この橋が架かっているだけで、ここを渡っている時にはね、向こうから来る人はね、通り終わるのを待っていないと渡ることはできません。

ところで、この原っぱの向こうには山があって、そしてその山の中には意地悪な、これなんていう字か知ってるかな？ 意地悪な狼が住んでいるんです。時々ね、この意地悪狼は、この橋を渡って動物村へもやってきますけれどもね、狼は、この動物村の動物達とあんまり仲良しになれないんです。

どうして仲良しになれないんでしょうね。意地悪だから？ そう、狼ってのは意地悪だよ。だから意地悪だからみんなあんまりいい顔をしていないんです。それからまた狼の方もね、こんないい動物達と一緒に遊ぶのが、あんまり好きじゃないらしいんです。

ある日のことです。この狐さんですね、狐さんがとことことこと、橋を渡りかけました。そうしたら向こうからこの狼がこの橋を渡ってくるんです。「あっこれはしまった」と思いましたが、もう狐さんの方が先に

渡りかけたからどんどん渡って行くと、渡り終えないうちに狼が、この橋のところに立っていて「狼様のお通りだ、お前は後ろへ下がれ！」と大きな声でそう言います。

「今ちょっとで渡り切るんだから、狼さん、ちょっとその道をあけて渡らせて下さいな」

「ならん！ 狼様のお通りだ、お前は後ろへ下がれ！」

こう言ってですね、狐を追い払ってしまいました。そうして「狼様のお通りだーい」と言いながらね、おおいばりでね、この橋を渡り始めました。

ところが、そこへ熊さんがやってきたんです。そして橋の真ん中で、熊さんと狼はパツパツぶつかりあいました。「やあ狼君どちらへ？ あっ熊さん、これはどうも失礼、私は後ろへもどります」 あれほどいばっていた狼が、大きな熊さんと見ると「狼様のお通りたい」とあれほどいばっていたのをどこへやら、いそいでひき返そうとします。

すると熊さんが「ちょっと待った狼さん、なにも後ろへなんかもどらなくたっていいんだよ、ちょっと待って」と熊さんは、大きな手で狼をつかまえると、ぴょーいとかみ上げました。そしてくるっとひとまわりしてハイッ、狼さんをぴ上こんと橋の上へ置きました。

「さあこれでいいだろう、なにも後ろへもどる必要なんかないんだ

よ」 狼さんは、それを見て「あーあ熊さんて強いけれどもやさしいんだな。あーぼくは、あの狐さんにあんなにいばって悪いことをした。ぼくがちょっと道をゆずってやれば、狐さんが渡れたのに、もとの道へ追い返して、あーあぼくは悪いことをした。もう二度とこんな悪いことはよそう。ぼくも熊さんのようにやさしい、いい動物になろう」。狼さんはね、そう思ったそうです。

あの強い、大きな熊さんがね、ちっともいばらない。それなのに狼は熊さんに比べると体も小さい。「ぼくがいばるのはおかしい」。それから狼さんはね、やさしい動物になったということですよ。だから今は、狼さんはみんなやさしくなっているから、ホラ、恐い狼は、今どこにもいないでしょ、あれみんな、狼がやさしくなって普通の犬になってしまったからです。今の犬というのは昔はね、恐い狼だったんですよ。

みなさんの中にはあの意地悪の狼のような子はいないかな？ いない？ 「ぼくは強いんだ」というような顔をしてね、弱い子をいじめて、自分が通る時は「そこどけ！」なんて言ってね、そういう子いないかな？ いた？ 悪い狼のような子で、そんな意地悪をしているといつまでもみんなから嫌われます。狼はそれでもよかったね、やさしい熊さんを見て「あの熊さんのように、強くてやさしい動物になろう」……そういうように考えた。りっぱですね。

皆さんも自分をよーく考えて、そして熊さんのようにね、やさしい、強いけれどもやさしい、そういう人になってください。さあ、それでは、黒板にいろんな字を書きましたから、また読んでみましょう。ハイッこれなんていう字かな？

「ドーブツムラ！」

そう動物村。

ハイッこの字、

「シカ！」

鹿ですね、ハイッ熊、狸、狐、猿、象、原っぱ、狼、山。

こういう字を、今、習いましたね。皆さん、よく読めました。では、これで先生のお話は、みんなおしまい。(拍手)ハイッどうもありがとう。